

この度、健康づくり財団では、新たなオプションとして若年層を中心に乳房超音波検査(単独)を実施することとなりました。

日本女性に増え続ける乳がん

乳がんは、がんのなかでも、日本女性がかかる割合(罹患率)がトップであり、その罹患率は増加の一途をたどっています。生涯のうちに乳がんになる女性の割合は、50年前には50人に1人でしたが、**現在は9人に1人**と言われており、年間9万人以上が乳がんと診断されています。

乳がんにかかる率は若年層から上昇しています！

乳がんを早期発見するための『ブレスト・アウェアネス』

年代別でみると、乳がんの罹患率は30歳台後半から増加し始め、40歳台後半から50歳台前半でピークになります。しかし、乳がん検診は40歳以上に推奨されているため**若年層では乳がんの早期発見が難しく**病状が進んだ状態で診断されることが多くなっています。早期に発見するためには、日頃から乳房の状態を意識する生活習慣＝「ブレスト・アウェアネス」が大切です。女性が乳房の状態に日頃から関心をもつことにより、乳房の変化を知っておくことが重要です。

次の項目のいずれかに該当する方は、

この機会に乳房超音波検査の受診をお勧めします。

- 1 家族(祖母、母、姉妹)内で乳がんにかかった人がいる。
- 2 初潮が早い方(11歳以下)。(月経期間が長い方(例：11歳～55歳))
- 3 初産年齢が30歳以上、または出産経験がない。
- 4 授乳中の方や若年層に多い高濃度乳腺の方
- 5 豊胸手術をされた方

最後に…

乳腺が発達した若い方でも、乳房超音波検査であれば痛みをとまわず、**女性スタッフ**が丁寧に対応させていただきますので、お気軽に受診していただけます。また当財団では、乳房超音波検査のみならず、健康診断と一緒に子宮頸がん検診も受診していただけます。ご希望により**女性医師**の診察も可能ですので、ご相談ください。この機会に是非、大切な家族のため、またご自身の充実したQOL(クオリティ・オブ・ライフ)のお手伝いをさせてください。